

一橋大学のチューニング

一橋大学・大学戦略推進事業
「チューニング」の実践と普及
国際フォーラム

2012年2月28日(木)

於： 如水会館

松塚ゆかり

(一橋大学・大学教育研究開発センター)



発表のアウトライン

- I 導入
- II なぜ今、チューニングなのか
- III なぜ一橋大学でチューニングを行うのか
 - ◆ 大学の教育目標との整合性
 - ◆ 既存の教育制度・実践との連動性
 - ◆ 既存の大学ネットワークの上に
- IV 今後の活動

I 導入

チューニングとは

チューニング

課程、コース、教科等の到達目標、学習成果、養成されるコンピテンス、教育に必要な物的・人的資源等を定義し、大学間で共有して、単位及び学位の互換性、比較可能性、相互認証性を高めること

世界的展開

- 2000年 Tuning Educational Structure in Europe
- 2004年 Tuning Latin America
- 2008年 Tuning USA
- 2010年 Tuning Russia
- 2011年 Tuning Australia, Tuning Africa
- 2012年 Tuning Canada, Tuning AHELO

I 導入 Tuning@Hitotsubashi 平成24年度の活動

★ チューニングの**概念、実践、効果**を調査研究し、
実行可能性を検討する。

● 海外調査:

2012年2月、9月 欧州調査: イギリス、フランス、ポーランド

2012年11月 米国調査: ユタ州

各国・地域で高等教育機関 (2~3大学)、 政府機関 (2~3機関)、
チューニング主催組織 (University of Groningen) を訪問調査

● Tuningの”How To”の大枠について明らかになったこと

「チューニングの運営形態、目的、実践内容は、各国(地域) **一様ではない**」

「その地域特定の **課題** や **ニーズ** に即して独自の展開が望ましい」

「欧州のチューニングをそのまま適用するのではなく、あくまでもガイドラインとして活用し、
日本独自、そして **個々の大学の特色を生かした** 枠組みと内容を作り上げていくこと」

「『**違い**』を**認識**して、それを**尊重**することが重要。横並びになると共存が困難になる」

Ⅱ なぜ今、チューニングなのか

日本の課題とニーズとは

- ◆ 高等教育の国際化と、グローバルに拡大する大学間競争
- ◆ 知識基盤社会が要求するモビリティの向上
- ◆ 「基準」もしくは「リファレンス・ポイント」の要求
- ◆ 高等教育へのユニバーサルアクセスと少子化がもたらす、質保証とアカウントビリティ強化の要請
- ◆ 高等教育費用が上昇する一方、公財政支出が縮減される中における、規制緩和と民営化、そして機能別分化の推進

⇒「国際化」「質向上」「特徴強化」

Ⅱ なぜ今、チューニングなのか

一橋大学の教育目標とチューニング

平成23年4月 学長発表 大学運営の基本方針

「一橋大学プラン135」

『スマートで強靱なグローバル一橋』の確立を目指して」
世界水準の教育を目指して、教育の
「高度化」「国際化」「多角化」を推進する。

第2期中期目標・中期計画

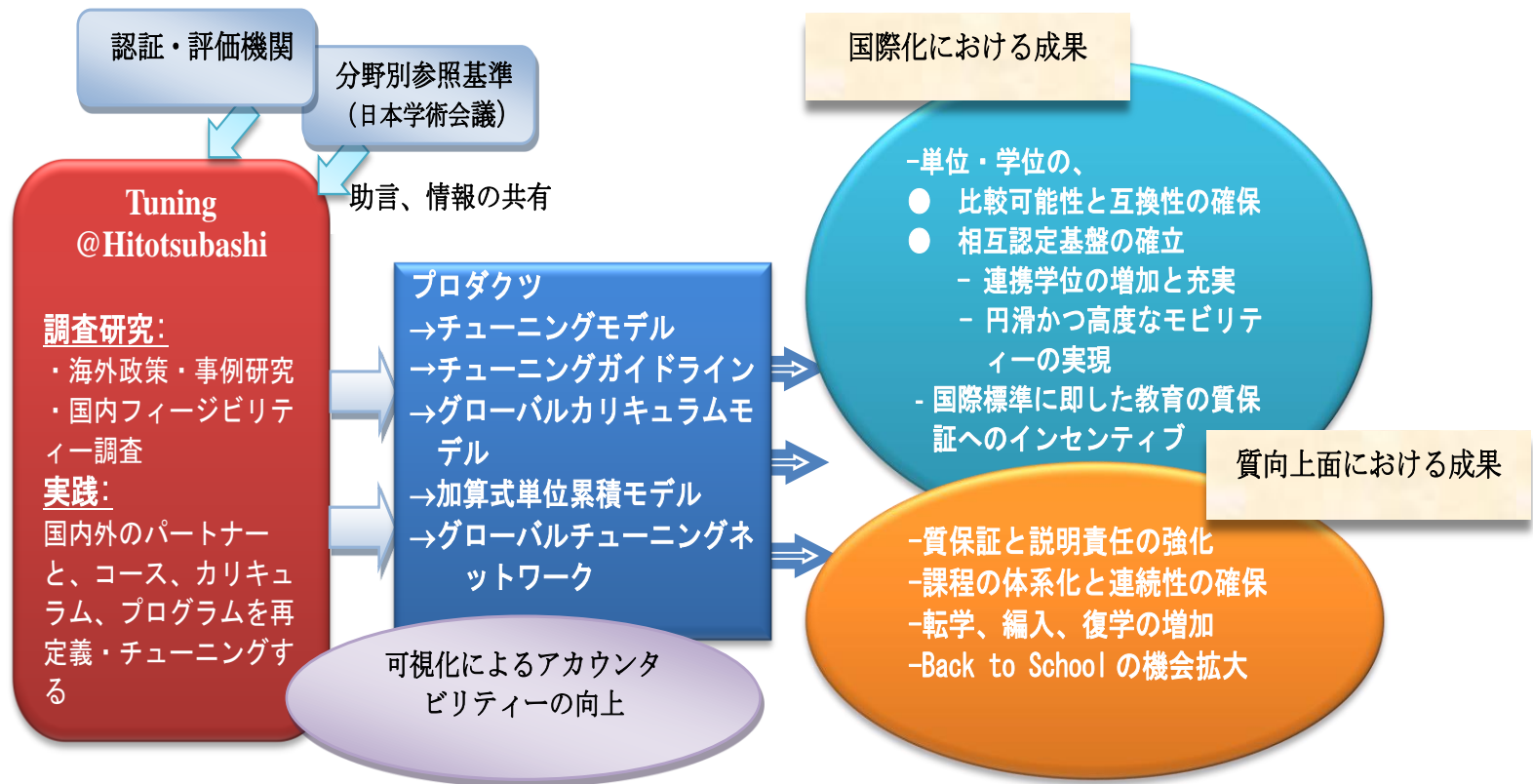
＜大学の基本的な目標＞国際的に活躍する有意な人材を社会に送りだし、21世紀に求められる先端的社会科学の研究教育を積極的に推進し、その世界的拠点として日本、アジア及び世界に共通する重要課題を理論的、実践的に解決する人材を輩出する

＜使命＞他大学との連携に必要な教育の実質化と高度化と国内、国際社会への知的・実践的貢献を実現する

＜教育に関する目標＞世界で通用する多様な人材を養成するため、学部・大学院を通じて学生の国際交流を推進するなど、教育の国際化を進める

Ⅱ なぜ今、チューニングなのか

日本の課題とニーズを鑑みつつ、大学の教育目標を達するために、チューニングに求める機能と効果

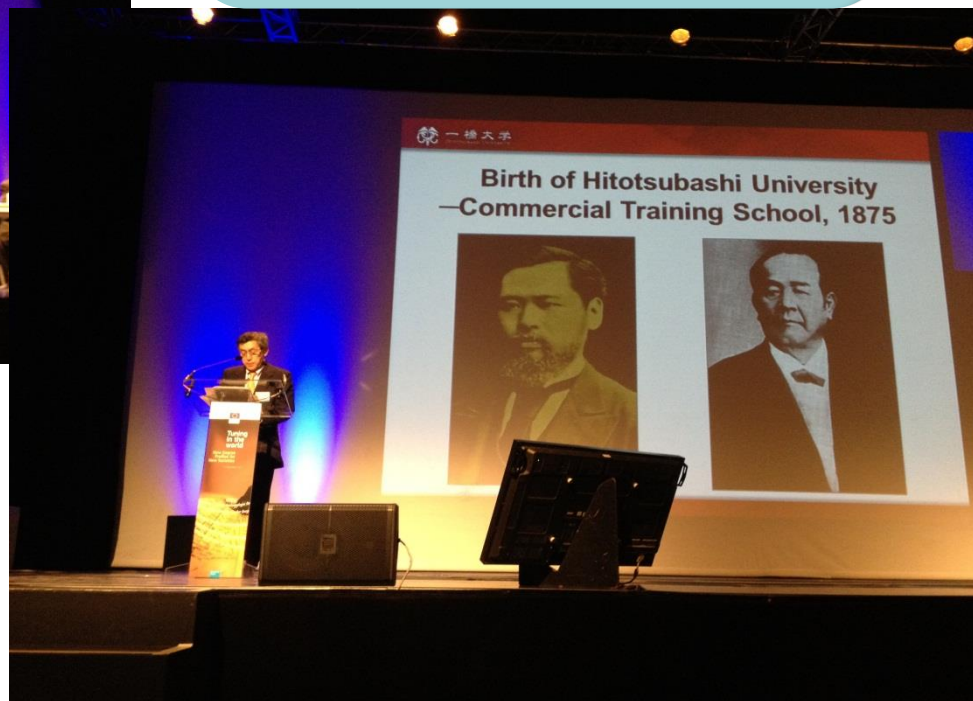


Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか —妥当性、実行可能性、有効性—

- ◆チューニングを実践する上での目的と理由が明確である = 大学の教育目標：教育の「高度化」、「国際化」、「多角化」を実現する上で有効である
- ◆社会科学分野における国際化のためのリソースに優れている
- ◆実行可能である。特に既存の制度、組織、活動面のリソースを活用し、相乗効果を持たせ得る
- ◆適用性の高いモデル設計とその配信が可能である

2012年11月 欧州委員会主催チューニング国際大会 「Tuning in the World: New Degree Profiles for new Societies」 山内進一橋大学長のスピーチ

一橋大学プラン135「スマート
 で強靱なグローバル一橋」確
 立のためのグランドデザイン
 「教育の国際化と高度化」
 を説明



国際交流の更なる促進とカリ
 キュラムの国際化により、日
 本そしてアジアの学位の国際
 化に貢献する指針を表明

Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか

既存の教育制度・活動との連動性：

GPA制度の導入と運用

- | | |
|----------|--|
| 1999年4月 | キャップ制導入(履修登録50単位を上限に) |
| 2003年4月 | 成績評価基準を4段階から5段階へ切り替え
最上位グレードガイドラインの実施 |
| 2006年4月 | Webシラバスにより授業方法、成績評価基準等の公開 |
| 2007年1月 | GPA制度検討委員会最終報告、ロードマップの提示 |
| 2007年4月 | 成績説明請求制度導入
統計データの蓄積と分析を行い、制度の評価システムを構築 |
| 2008年4月 | GPA計算式の公式化と成績表への記載
「-」、「F」の「F」への統一、W(履修登録撤回)の実施
低GPA取得者への学習支援の試行 |
| 2010年4月 | GPAの卒業要件化(1年次からの学年進行) |
| 2012年10月 | アカデミック・プランニングセンター(APLAC)始動 |
| 2014年3月 | 卒業要件として適用(判定) |

Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか

既存の教育制度・活動との連動性：

卒業要件値としてのGPA

従来の卒業要件(総単位数144単位)に加えて卒業時に累積GPA値 2.00以上を卒業要件とする。ただし、導入期は経過措置として1.80以上とする。

支える制度：

■成績評価の厳格化

放棄(-)と不合格(F)を不合格(F)に統一する。

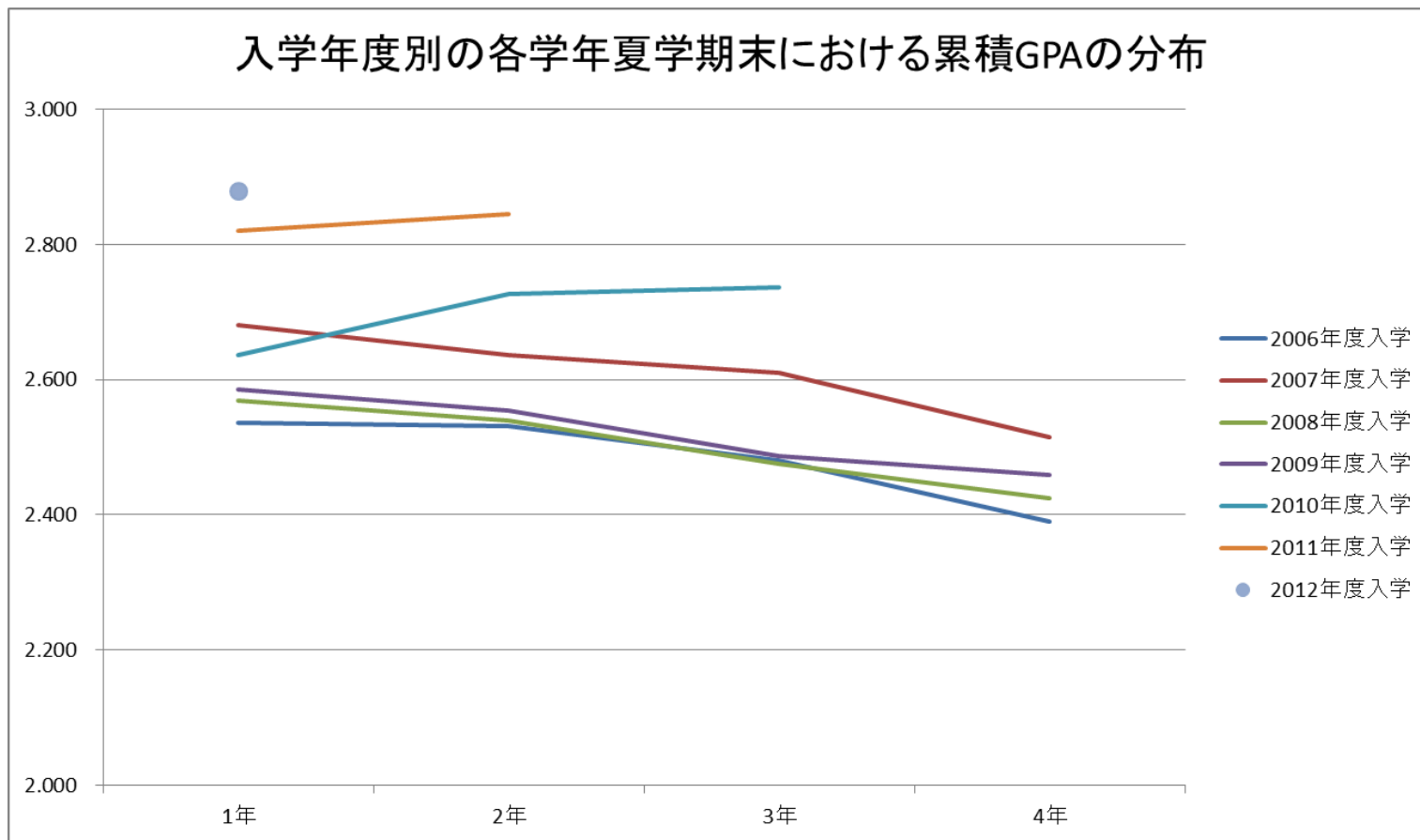
■履修撤回(W)の導入。登録科目の日程が2/3進行するまでに履修を放棄することができる(総履修登録単位数に加算されない)。

■既単位取得科目の再履修を認める(再履修で取得した成績が、既取得成績に上書きされる)。

■成績説明請求・成績説明再請求制度(従来の教員個別対応から教務課を通した文書対応へ)。

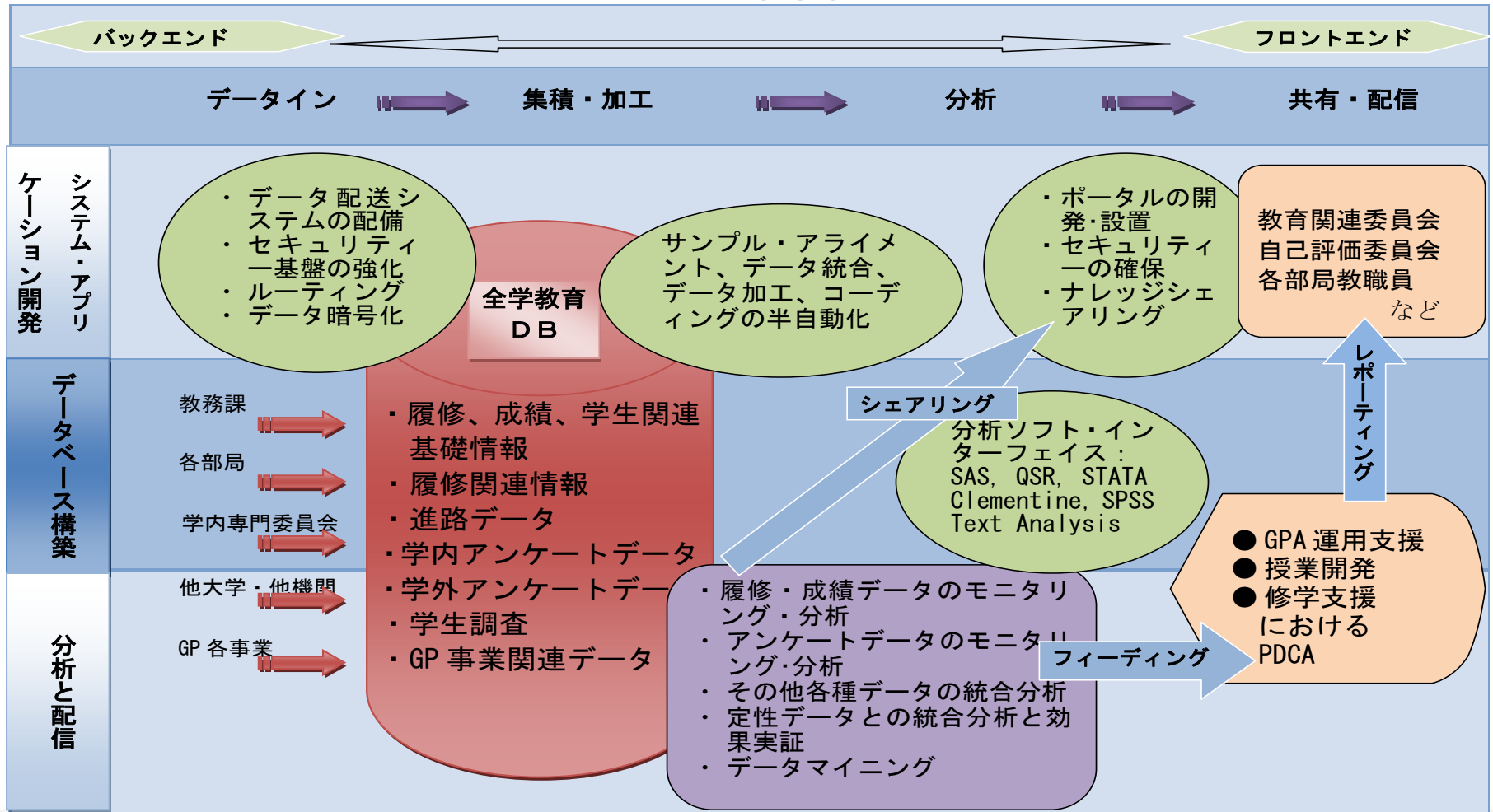
Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか

既存の教育制度・活動との連動性： 制度のインパクト



Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか

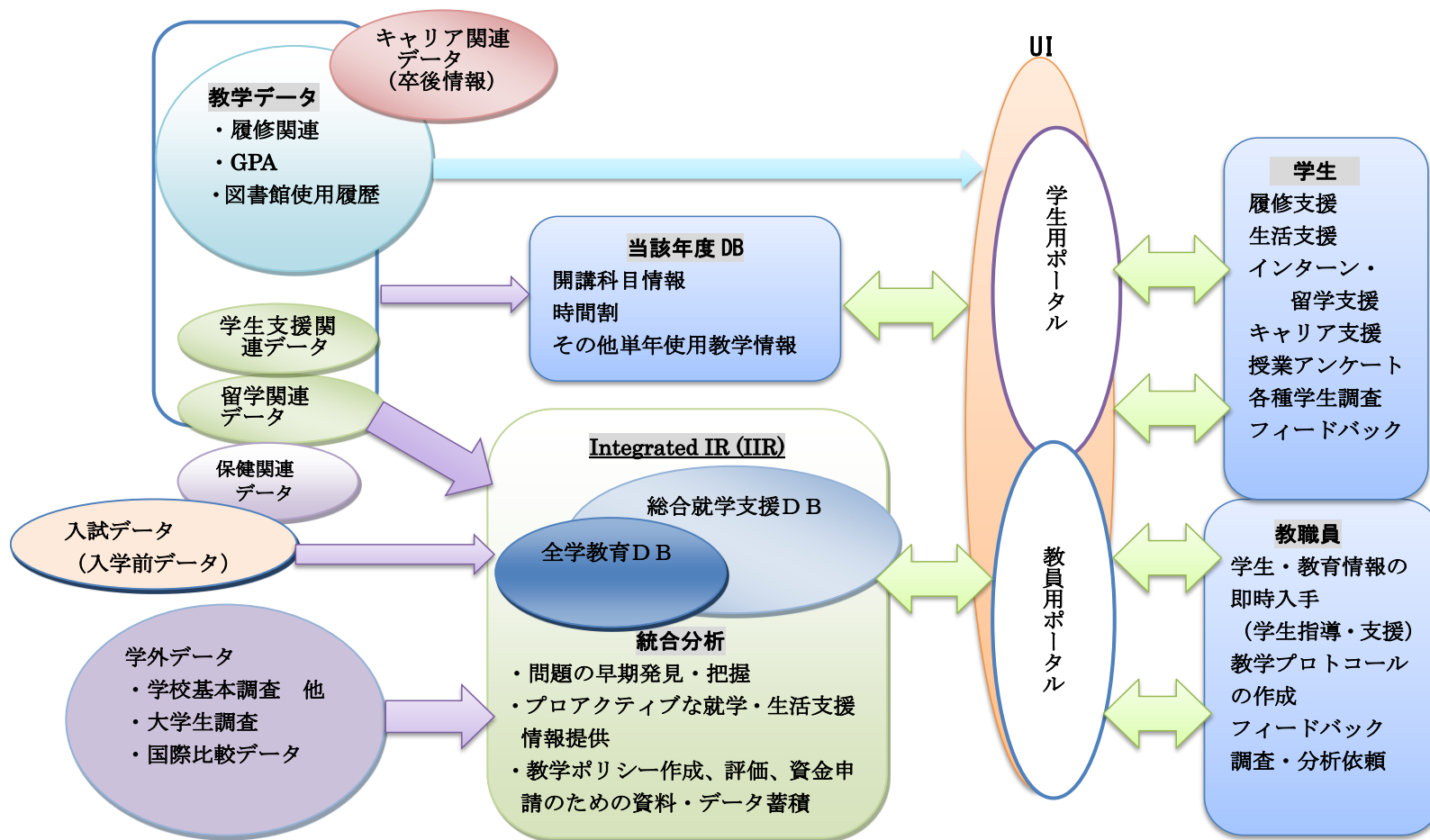
既存の教育制度・活動との連動性： IR – 1st Phase



Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか

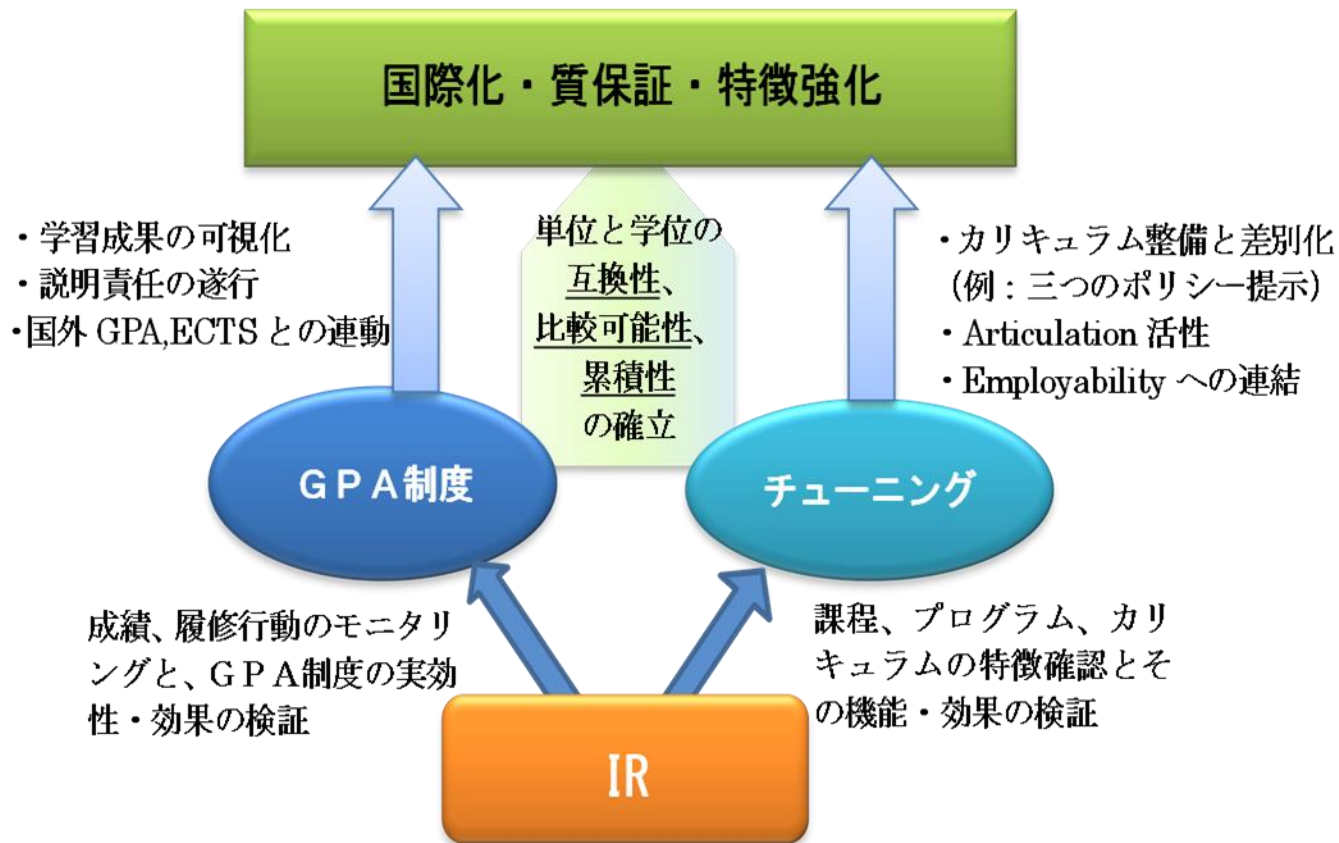
既存の活動との連動性： IR – 2nd Phase

教育と支援のための統合 IR (IIR)



Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか

既存の制度と活動の上に



Ⅲ なぜ一橋でチューニングなのか

教育目標との整合性と、既存大学ネットワークの活用

◆ 分野間チューニング

例：「文理共鳴」を目指した複合領域コース

補完性を活用して、領域における高度な英知を組み合わせる

⇒ 「多角化」「高度化」

◆ 専門特化型チューニング

例：BEST Alliance，アジア太平洋地域3大学ネットワーク、エラスムスネットワーク、グローバルリーダー育成海外留学制度・・・

専門性を極めて、知識基盤社会における高質なモビリティを実現する

⇒ 「高度化」「国際化」

4大学連携による先端的「文理共鳴型教育」の構築

「四大学連合」協定に基づく「複合領域コース」の革新

「総合生命科学コース」
(橋・工・医) 160

「海外協力コース」
(橋・工・医) 43

「生活空間研究コース」
(橋・工・医) 46

「科学技術と知的財産コース」
(橋・工) 86

「技術と経営コース」
(橋・工) 53

「文理総合コース」
(橋・工) 189

「医用工学コース」
(工・医) 119

「国際テクニカルライティング・
コース」(工・外) 130

「医療・介護・経済コース」
(橋・医) 74



設計：コースごとに指定された科目群から、他大学科目を含む所定の単位を修得
→ **コース修了認定書授与**

実績：平成17～23年度の受講者合計**900人**
→ **年平均約130人が受講**

4大学教育連携の新たなミッション： 俯瞰力と分野横断力を備えた対話力に優れた「グローバル人材」の養成

→ 実績にもとづき、各大学の独自性を基盤とした

「文理共鳴型教育」としての「複合領域コース」

という革新的理念の導入と具体的実施

→ 「複合領域コース」運営事務局を設置し、4大学にコーディネーター各1名を配置して、コース設計から運営・評価に至るPDCAサイクルを共同で行う体制の確立

→ 遠隔授業システムの大幅更新による受講の円滑化

一橋大学 ICS、北京大学、ソウル国立大学 BEST Business School Alliance



エラスムスネットワークパートナーの連携カリキュラムモデル

	Theme or Topic				
	Risk Management (RM) for disasters	Environmental Protection (EP)	Memory and Reconciliation (MR)	Conflict Resolution (CR)	Knowledge Society (KS) and Innovation
Law	Disaster Relief Act International vs. national law	EP Law International environmental treaty	War Memory and compensation War criminal court	Human rights protection in wartime Rule of law in post-conflict	Intellectual property rights Licensing contracts
Economics	Social security & RM Risk analysis and risk management	Economic development and EP Energy and environment	Reconciliation, social integration and economic development	Post-conflict development and World Bank(WB) War-time economy	Knowledge economy Economics of innovation Skills mobility and disparity
Business	Financial RM Risk and insurance Recovery investment	Corporate social responsibility and EP Environmental ISO	Wartime forced labour in corporations Private contribution to MR	Private military company Diaspora and business Investment	Innovation management Organization of R&D Knowledge investment
Sociology	Community development Self-vs. Community support	Environmental NGOs “Think Globally, Act Locally” Environmental NGOs	Ethnic conflict and Social disintegration Truth and reconciliation Committee	Ethnic conflict and social integration Protection of human rights Gender and conflict	Social production & exchange of knowledge Social networking Immigration
History	History of disasters and response to them History of RM	History of industrialization and pollution	Common history Textbook issues War museum	Conflict & military history Development of conflict management	History of science and technology Economic development
Political Science	Government RM policy Resource allocation for RM Vote and decision	Government policy on energy and environment Nuclear plant accident and EP	Official memory, Public Memory & Collective Memory Historical Perception in Foreign Policy	Democratization of Post-Conflict nations “Failed States” Governance reform Security sector reform	Government records & statistics management Public information distribution
Public Policy	Local vs. national risk management Private vs. public RM	Local governments’ Environmental policy Environmental assessment Environmental Ombusman	UN and Reconciliation Project in Community Government use of the past	DDR(Disarmament, Demobilization, and Reintegration)	Innovation policy National system of innovation
International Relations	Cross-border cooperation and RM on disasters New Threats (Terrorism, Drug, and Infectious Disease)	UN framework convention on climate change Post-Kyoto protocol Environmental globalism Inspection panel and WB	War memory and global/transnational history Sharing memory and regional integration	New War and Old War Peacebuilding and the UN Global justice Human security Right to protect	KM in globalism Harmonization of IP system International technology transfer

IV 今後の活動 分野別参照基準の活用

日本学術会議が進める「分野別質保証」

2008年文部科学省中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」を受けて、

「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」

「大学教育の分野別質保証推進委員会」

(委員長 北原和夫先生)

人文・社会科学教育の可能性：

経営学、言語・文学、法学の参照基準を作成

IV 今後の活動

24年度のこれからと、25年度以降の計画

24年3月

◆ クリフ・アデルマン氏による講習会

【IR関連】3月5日(火)、3月6日(水)、3月7日(木)

【チューニング関連】3月12日(火)、3月13日(水)、3月14日(木)

◆ 中国調査

中国教育省、北京大学、清華大学

25年度

チューニングの実践

アジア圏を中心にチューニングモデルと単位加算モデルの作成を開始

26年度以降

チューニング後カリキュラムと単位加算モデルを使用した留学交流を開始。運用1年後からチューニングの内容、効果、単位・学位の比較対応性、通用性等の検証

詳しくは、
一橋大学・大学戦略推進事業
「社会科学をチューニングする」

<http://www.rdche.hit-u.ac.jp/~tuning/index.html>

をご覧ください。

御清聴ありがとうございました。